

特定テーマ② | フレキシブルな施設機能のうちキャンプ場関連の機能を設計する上での考え方について (実施要項に示した項目ごとに記載してください)

■基本設計の内容に対する考え

環境時代に対応する施設固有の多様性を持つフィールド

MEADOW CAMPINGの理念と課題

世界的にも多くの人が自然への理解と敬意を深め、地域の自然環境への貢献、生態系の結びつきは重要なメッセージを有しています。地域の環境から発想し土地の個性と多様性を持たせ、変化を楽しむ、施設だけの場所だけのキャンプ場を目指していきます。実施設計においては利用者利便性への十分な配慮、維持管理との連携を明確にし、目指すビジョンに適合した設計を実現します。

実施設計の課題

- 1) 地域の自然環境を尊重し魅力を引き出す
- 2) 自然共生の価値観・地域認識の醸成
開発による環境負荷低減の工夫を伝える
- 3) 利用者利便性とニーズとのバランスに十分配慮する

■整備費用、維持管理費用等を低減する工夫

メンテナンス性と粗野で美しい景観の双方を高いレベルで実現する

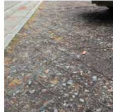
メドウを実現する芝生品種選定

芝生は維持管理の負荷もふまへ、対踏圧性の高い一般に流通するものから選定します。メドウを構成する大草の長くなる品種を選定します。また土壌調整を行い、播種が吹付工事とすることで工費費の削減につなげます。



自然な景観を実現する舗装選定

自然な景観を保つことに加えて、雨水を集めさせない透水性のある舗装材を選定します。キャンプ場では鋼や木材など重いものやかきばらるるものを持って歩くことも多いので、歩行利用を想定する場所は勾配を5%以下に抑え段差処理を少なくし、移動のスムーズさに配慮します。



施設固有性と自然の混植

芝生に混植する野草は工事でなく市民参加のプログラムで取り組むことを提案します。現地周辺の草で得た種を取り置きするプログラムを定期的に実施します。参加・住民の協力を求めることで長期的な維持管理にも効果求められる様に進めます。



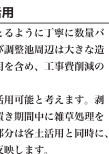
間伐材や発生材を活用した

柔軟な施設計画の併用
現地で発生する伐根木や地域の間伐材を活用し運営予定者と協議しながら取り回していきます。例えばベンチなどは間伐材を活用して整備し、古くならぬ取り換えることが可能です。チップ化して園地に敷き込み活用することで景観の印象を上げられます。地域の間伐材の有効利用にもつながります。



敷地造成のコスト削減と畜土の有効活用

キャンプ場の造成は、敷地全体のバランスをるように丁寧に敷き土をとり設計を行います。コア施設側及び調整池周辺は大きな造成が必要となっており、公共工事発生土の活用を含め、工事費削減の手法を丁寧に検討・調整して設計します。



自然との共生の価値観を伝える「学び」を

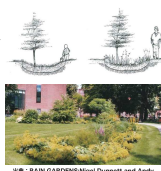
設計プロセスで発生する「学び」を
地域と共有します
野草を用いた植栽調査や、野生生物対策は設計に具体的に反映するために現地調査や専門家との意見交換を行います。このような設計に伴い発生する「学び」が、地域としても有効な内容は公開・共有することで、相互理解や将来の施設への期待、愛着につながるよう進めます。スムーズな開発・移行のための運営予定事業者と調整して実施します。ただし安全に配慮し感染拡大防止対策を取り人数や対象を絞って実施します。



■設計面での独自の提案

安全性と排水効率を確保した上で環境負荷低減を取り入れた排水設計

水はけの良さはキャンプ場の重要な課題です。環境的に配慮されるためのディテールは利用者の安全性や自然に馴染みやすい環境に配慮して丁寧にデザインします。また環境負荷低減の視点から植栽帯などを有効に活用してゆっくり地中に放出する手法-レインガーデン-でも検討し、効果的な位置とエリアを選定し取り入れ、利用者にもサインなどで発信します。



出典：RAIN GARDENS Nigel Dunnett and Andy

自然との共生の価値観を伝える「学び」を

設計プロセスで発生する「学び」を
地域と共有します

野草を用いた植栽調査や、野生生物対策は設計に具体的に反映するために現地調査や専門家との意見交換を行います。このような設計に伴い発生する「学び」が、地域としても有効な内容は公開・共有することで、相互理解や将来の施設への期待、愛着につながるよう進めます。スムーズな開発・移行のための運営予定事業者と調整して実施します。ただし安全に配慮し感染拡大防止対策を取り人数や対象を絞って実施します。

■集客、利用者満足度向上につながる工夫 多様な利用者層の興味関心に応えるアウトドアフィールドづくり



敷地全体の一体感を高める植栽

コア施設とフレキシブルな施設の一体感を大切にする。市道から駐車場、コア施設、キャンプ場までの連続的な景観の軸となる高木を植栽します。露天風呂、多目的広場、駐車場、キャンプ場は風向きを感じながらよりテーマとった植栽は決めて自然な一体感を得られる設計にします。



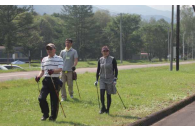
味わう楽しみのある植栽

四季折々収穫に訪れたくなるよう、季節ごとに変化するキャンプ場を目指します。草地環境だけではなく、果樹や花木、ハーブなども取り入れた植栽計画を取り入る。多目的広場を遊びの中心として、また遊びの中心となるようテーマとった植栽は決めて自然な一体感を得られる設計にします。



子どもの遊び場の導入

ニューファミリーはキャンプ場利用の主要な層です。キャンプ場の魅力や期待することの一つに、子どもの遊び場があげられることも多いので、子どもの遊び環境を導入します。多目的広場を遊びの中心として、また遊びの中心となるようテーマとった植栽は決めて自然な一体感を得られる設計にします。



施設アウトドア活動拠点

敷地は釣りや人気の大戸用や歴史ある古跡神社、石炭山。また南澤ダム完成後の湖など多様なアウトドア活動のフィールドに近いです。水源地の魅力を発信する活動拠点として設計を行います。交通、情報、人の交流の結節点として自転車スタンド整備、歩道策路のネットワーク充実、整整路広場などのベンチの配置を行います。



施設の自然や環境を学ぶサイン

豊かな環境に囲まれた場と自然との共生をより体感するため、環境や植物、生き物について体感する学習サイン等を整備します。樹名板の設置、クイズ要素のある展示、今花や虫が見られる森の植物の情報掲示板、森の生き物類の設置などが考えられます。全てをキャンプ場に整備するのではなくコア施設との配置優先も検討します。



深岩石：地場産材の活用

この地域の特色として深岩石の自産のある景観はとても印象的です。この施設においても地域の材料を活用し魅力的な場を整えます。軟石なので歩道舗装もしくは緑石として活用します。石材の仕上げ方によって多様な表現が可能であり、新しい視点で地域の魅力を表現するよう取り組みます。

■同種類似の設計業務内容

十勝エコロジーパークオートキャンプ場

国立公園にあるキャンプ場で、十勝川河原の地形と草地をそのまま利用して設計しました。既存地形を読み取り設計を通して土地の造成をほとんど行わず排水設備も植栽も取捨選択、エコロジーパークというビジョンに適合したキャンプ場となりました。



旭川北彩都ガーデンでの

市民参加

旭川駅南側の忠実川との間にある公共緑地を市民の道と位置付けた事業で、市民と一緒に旭川の新しいガーデン文化を育てていく取り組みとして参加型プログラムを継続してきました。工事が始まる前から継続的に実施し「フリップ」につなげ、公園維持管理の協働を実現しました。

*用紙はA3判とし、横並びで記載すること

*提出者（協力事務所を含む）を特定することができる内容（具体的な社名等）は記載しないこと。社名等が特定できないものであれば、写真等の掲載も可とする。